



まちづくり課題検討特別委員会の活動をお伝えします

伊那北駅周辺整備、伊那弥生ヶ丘高校の将来活用、伊那市駅から伊那北駅間の新たなまちづくりなどについて、先を見据え考える特別委員会を設置し検討しています。

遊休不動産を利用し新たに活用している事例を視察

荒井・西町の事業者の取組みを調査しました。家賃を低く設定するなど、西町商店街全体で若者の挑戦を応援する風土があり、今後のまちづくりにおける大きな可能性を感じました。議員の中からも「若者が頑張っている、こんな店があったんだ!」との声が聞かれました。



伊那まちBASEの平澤正貴副理事長に、各店舗や街並みの状況を案内していただきました。リノベーションし開店予定の建物や取り壊しで空き地となった土地など、普段は気づくことができない場所を確認することができました。

すまいテラス
いな代表の
鈴木孝之さんから
の学び

- 空き家を店舗や倉庫として活用するという考え方。
- 空き家は地域の魅力となる可能性を秘めた地域のモノである。

西町ガレージ・
さかさま不動産の
小嶋郁哉さんから
の学び

- まちづくりのためにという考えから立ち上げている。
- 空き家であることを知られたくない大家さんがおり、そのままになっている空き家の繋ぎをしている。

まちやど みる
街宿MILLEを営む
齋藤俊介さんから
の学び

- 伊那市のPRポイントの伝え方。
- “まちやど”と称した地域価値を向上させる事業に取り組んでいる。

リヤコーヒーの
和泉翼さんからの
お話

- 伊那に移住した経緯。
- 5,000円のリヤカーを購入し給付金の10万円でスタートした起業時から、現在に至るまでの経験や取り組み。

県内外4市町を視察 (山梨県韮崎市、群馬県前橋市、群馬県みどり市、長野県下諏訪町)

空き家・空き店舗対策、起業支援、官民連携によるまちづくりのあり方について視察しました。どの地域にも共通することは、地域に眠る空き家・空き店舗を「地域の資産」としてとらえ、挑戦する人と地域が共に育つ仕組みができていることでした。地域の未来を支えるのは制度や建物だけではなく、「人の思い」と「つながり」であり、挑戦する人々を支える文化と仕組みづくりを、市民と行政が協力して築いていく必要があると感じました。

